

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		東京未来大学		設置者名		学校法人 三幸学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成24年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
こども心理学部	こども心理学科 保育・教育専攻	160人	幼一種免	平成19年度	88人	74人	74人	23人	
			小一種免	平成23年度			—		
	こども心理学科 通信教育課程	150人	幼一種免	平成19年度	198人	60人	20人	12人	
			小一種免	平成21年度			41人		
モチベーション行動科学部	モチベーション行動科学科	100人	中一種免(社会)	平成23年度	—	—	—	—	
			高一種免(公民)	平成23年度			—		
入学定員合計		410人	合計		286人	134人	135人	35人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成25年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。								

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成25年10月18日（金）

実地視察大学：東京未来大学

実地視察委員：天笠茂委員，酒井朗委員

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程及び教員組織等について，教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準等を満たしていない点があるので，制度を理解の上，速やかに是正すること。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 「確かな教育技術を獲得し，併せて児童・生徒の心を深く理解し，こころに働きかけることのできる教師」という教員養成に関する理念が示されており，その理念を具現化するための教育課程に対する全学的な組織，教育課程及び教員組織はおおむね整っているように見受けられた。引き続き，教員養成の質が充実したものとなるように努めていただきたい。
- 通信課程において，実践的指導力という観点での養成をより一層充実させるように，指導体制等の整備に努めていただきたい。

2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目），履修方法及びシラバスの状況

- 「教職に関する科目」について，教育職員免許法施行規則第6条第1項表に定める「含めることが必要な事項」が含まれているか否か，シラバスからは判断できない科目があるため，法令で扱うこととしている内容は必ず扱うようにすること。なお，シラバスの記載内容及び記載方針を定め，法令に定める「含めることが必要な事項」が取り扱われているかどうかをシラバスの授業計画から確認できるようにすること。また，教職課程に係る全学組織を中心としてファカルティ・ディベロップメント等を推進し，各授業内容及び授業方法の改善を図り，教職を志す学生が当該授業の履修を通じて，教員としての必要な知識・技能を確実に学修することができるように努めていただきたい。
- 幼稚園及び小学校の教職課程は，教員養成を主たる目的とする学科等においてのみ置くことができるとされているが，こども心理学部こども心理学科（通信課程）に関して，貴学の履修規程等からは，目的養成とはなっていないように見受けられた。幼稚園及び小学校の教職課程を維持するのであれば，コース等に分けてカリキュラムを再編するなど，履修規程等を再構築し，目的養成としての要件を満たすように

改善すること。

- 教職課程認定基準に定める必要専任教員数を下回っている教職課程や、教職通信教育の課程の特例の条件を満たしていない課程があることから、それらの課程については、速やかに教職課程認定基準を満たすように改善すること。
- 幼稚園教諭や小学校低学年の教員の養成という観点では、体制は充実しているように見受けられたが、今後は、小学校の高学年も担当できる教員養成の体制整備を図っていただきたい。

3. 教育実習の取組状況

- 足立区教育委員会との密接な連携の下に教育実習が実施されているように見受けられた。引き続き、足立区教育委員会との連携・協力体制を強化するとともに、大学による教育実習指導体制を充実させ、学生への適切な指導、公正な評価となるように努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 進路に関してサポートする CCS センターの整備が整えられているが、今後のより一層の充実を期待する。
- 実習サポートセンターについては、例えば過去の指導案などの各種実習の蓄積物を整理・保管する等、教育実習の情報が得られるような環境を整備するなど、今後機能強化に努めていただきたい。
- 教職指導は、就職指導のみならず、学生が教職について理解を深め、教職への適性について考察するとともに、各科目の履修等を通して、主体的に教員として必要な資質能力を統合・形成していくことができるように、教職課程の全期間を通じて、大学が計画的・組織的に指導する必要がある。このことを踏まえ、履修カルテを有効活用するとともに、教職指導の充実に努めていただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 足立区教育委員会と緊密に連携されている状況が確認された。今後、連携をより一層深め、相互に発展されることを期待する。例えば今後、足立区の現職教員との関係を構築し、大学として関わっていくことが考えられる。
- 教職に関心のある学生が、早い段階から学校におけるボランティア活動等を通じて、教職の魅力や教員としての適性等を把握した上で、教員免許状の取得を目指すことは重要であることから、学生が教育実習以外にも学校現場等での体験機会を得ることができるよう努めていただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 幼児教育の分野，理科，家庭科及び音楽に関する施設・設備や図書等は充実している状況が確認された。
- 一方，社会・公民の分野に関する施設・設備や図書等については充実しているとは言えないため，今後，整備・充実に努めていただきたい。

7. その他特記事項

- 特になし。